

# 「ワンオペ育児」の現状

- - 首都圏の働く母親の調査から

# 「ワンオペ育児」とは

- 育児の**当事者たち（主に母親）**が使う**俗語**。≠学術用語。
- ブラック企業の「ワンオペ\*」労働が、母親たちの家事育児などの労働とそっくりなことから、ネットを中心に2015年頃から母親たちの間で広まり始めた。
- 以前から、「母子カプセル」「孤育て（孤独な子育て）」などの言葉があった。2010年代に入ってSNSが普及したことにより、ほぼひとりで育児をする母親たちがTwitterなどを通して繋がり始めた。彼女たちは、「ワンオペ育児」という言葉を使って家事育児に関する重い負担や孤独感について語り合うようになった。

→母親たちの現状が、当事者コミュニティの外からも見えるように

- 報告者が2016年9月毎日新聞記事に「ワンオペ育児」という言葉とその状況について書いた  
→この語が広まる1つのきっかけに → 2017年「流行語大賞」にノミネート

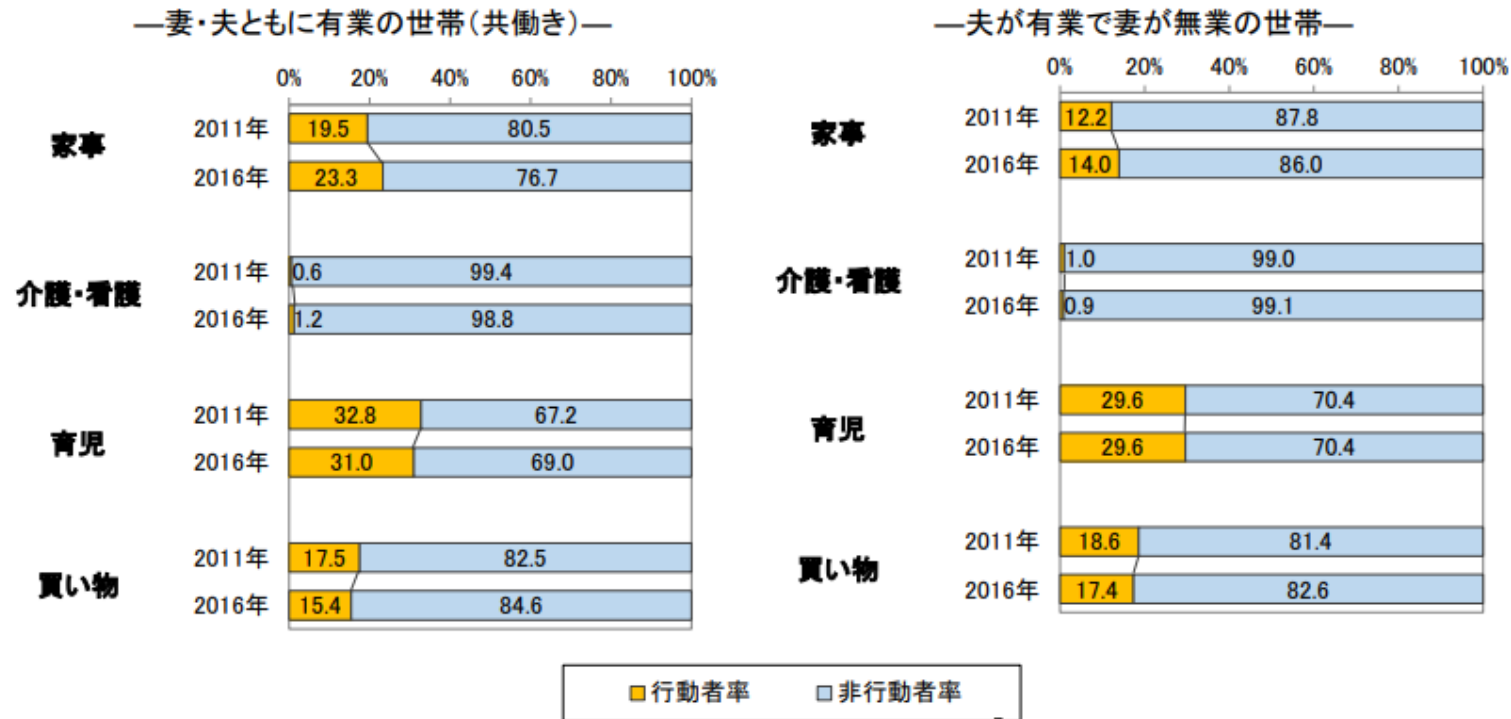
\*2014年ごろ、某チェーン店で従業員が休憩も取らず、長時間1人で清掃・調理・仕入れなどすべての業務をこなす「ワンオペ（ワンオペレーション＝1人作業）」が社会問題になった



## (6歳未満の子どもをもつ夫の育児・家事関連 行動者率)

- 6歳未満の子供を持つ夫の家事の行動者率は上昇。
- 共働きの世帯で、約8割の男性が家事を全く行っておらず、約7割の男性が育児を全く行っていない(注)。

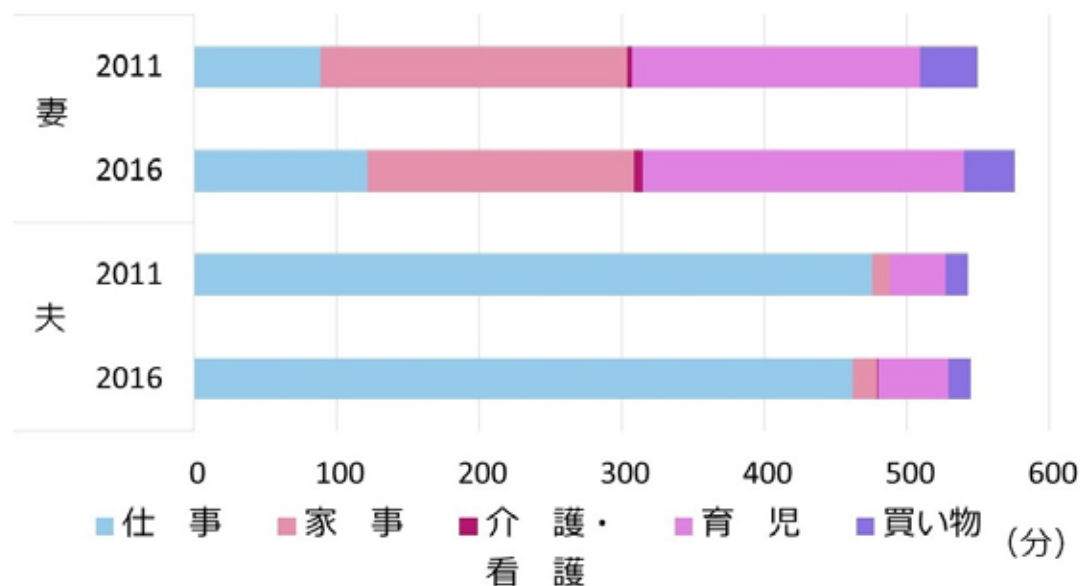
【図表 6歳未満の子どもをもつ夫の家事関連の行動者率(週平均)】



出典：内閣府男女共同参画局「『平成28年社会生活基本調査』の結果から～男性の育児・家事関連時間～」平成29年10月より転載

# 働く女性でも育児の大半を行っている

1日の仕事・家事育児時間



- ü 仕事 + 家事育児の時間は妻のほうが長い
- ü 夫は「育児」より「テレビ」 + 「娯楽」のほうが長い

夫と妻の生活時間比較

	調査年	育児	テレビ・ラジオ 新聞・雑誌	趣味・娯楽	休養・くつろぎ
夫	2016	<b>49分</b>	46分	30分	1時間 24分
	2011	39分	1時間 9分	28分	1時間 18分
妻	2016	3時間 45分	42分	22分	1時間 9分
	2011	3時間 22分	1時間 8分	21分	1時間 12分

総務省『社会生活基本調査』平成23年・28年の結果より作成、  
「6歳未満の子を持つ夫婦」「夫婦と子どもの世帯」「週全体」の場合

# なぜ父親は家事育児を分担しないのか

- 父親の家事育児分担に関わる主要因
  - 長時間労働、性別役割分業意識、祖母のサポート、夫婦の学歴・収入の差など（松田 2016 他）
  - 父親は子供と「遊び」はしても、「世話」はしない傾向（松田 2006，大和・木脇・斧出 2008）
- 父親の家事育児分担は母親の負担感を減らす
  - 以前は、妻の負担感に効果があるのは夫の実質的なサポートではなく、夫の情緒的サポートであった—「ケアをする妻のケアをする」（稲葉 2005）
  - 最近では、妻の就業の有無を問わず、夫が平日に家事育児を行うことは妻の負担感を減らす傾向が明らかに（鈴木 2013）

# 「共働き家族における仕事と子育て」 ——母親への調査から

## 調査参加者

- 首都圏在住、フルタイム共働きをしている母親 30名程度
- 0歳～5歳の子どもがいて、子ども保育園に預けている世帯 ← 収入が比較的高い世帯

## 調査方法

- 育児と仕事の両立、幼児教育の状況について詳細な聞き取りをする
- 数回の継続的なインタビュー、日常生活の参与観察

## 調査目的

- 育児分担をめぐる交渉と過程を明らかにする
- 働く母親たちがどのように日常生活を送り、意味づけをしているのかを明らかにする

(東京大学発達保育実践政策学センター関連SEED研究プロジェクト(2017年度)「共働き家族における仕事と子育て—未就学児がいる家族を対象に—」報告者と額賀美紗子東大大学院教育学研究科准教授との共同研究)

# 調査結果① 家事育児分担の交渉・状況

- 母親の産休・育休中や復帰後に、話し合いの場を設けず、なりゆきで分担が決まる傾向→母親の負担が多くなる

「分担がどう決まっていたか？知らないうちだと思います。どっちかがやっていないと、どっちかがやるっていう感じです」

- 母親はほぼすべての家事育児をするが、父親の多くは自分がしたい家事育児を選択する傾向がある

- 「夫が家事の頻度をひとつ増やすと、妻の家事負担は減るのか？」(筒井・竹内 2016)

→夫の家事スキル、および家事マネジメントに対する意識が影響

女性たちが男性のケア労働の「お膳立て」(平山 2017)

夫は「洗濯は自分がやっている」と思っているが、妻は「夫が洗濯機を回し、洗濯物を干しますが、たたむのは私です」という

\* メディアやSNSでも「名もなき家事」として話題に

● あなた以下の作業を家事だと思いますか？ 男女別比較  
n=600 (男性 n=300 女性 n=300)

■ 妻が夫より多い項目



出典：大和ハウス工業「共働き夫婦の『家事』に関する意識調査」

# 調査結果 仕事と育児の調整

「管理職は男性」という職場慣行によって、父親が残業、母親が時短・定時退社の戦略を夫婦でとる

→女性が仕事と家事育児の負担

「夫が育休取れば、どうなるかくらいはわかります。管理職は男性が多いです。取締役は全部男ですし、部長以上も全員男性です」

「育児分担の理想は5対5ですね。ただもう現実には半々では絶対できないので、（夫が）2割でもやってくれば。実際は（自分）9対（夫）1ですね、ほぼ」

→夫の職場で男性の働き方が変わらなければ、妻は「ワンオペ育児」の状態に葛藤しつつも、仕方ないとあきらめたり、自ら負担を抱え込もうとしたりする

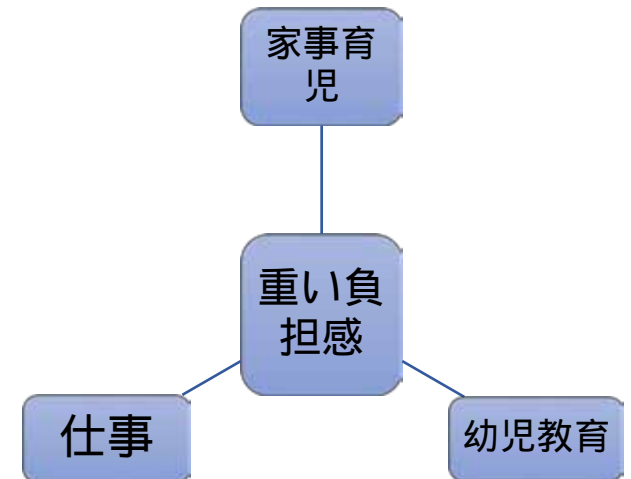
妻のほうが高収入、あるいは昇進可能な職場で働いていても、夫が長時間労働であれば、妻が家事育児を多く分担しようとするケースも

「夫の会社がブラックだから、子どもの急病は全部私です。もう仕事は休みまくりました」



## 調査結果③ 幼児教育の早期化

- 保育園に通わせながら週末に習い事をする、良質な教育を子どもに受けさせようと認可保育園から幼稚園に転園するなどの状況が見られる  
「塾もプールもピアノもやらせたいこといっぱいある。……働いていればそういうこともやらせてあげられる」
- 女性たちの「母親役割」に対する責任感は非常に強く、仕事よりも子どもを優先する傾向がみられる
- 「ゆとり重視子育て」「習い事重視子育て」のどちらの子育て型でも父母の協働がみられるが、母親がイニシアチブを取り、父親は従属的役割
- 保育園の待機児童問題で就学前施設に入れない、施設を選べないという状況がある



**出産への躊躇、保活疲弊、幼稚園への転園模索などで、仕事との両立ジレンマ増大**

# 出産をめぐる葛藤

## 例1

- 夫  
伝統的な性別役割分業意識  
仕事規範（小笠原 2009）強い「男は仕事第一」  
長時間労働

- 妻  
仕事+「ワンオペ」で家事育児  
本人の仕事への意欲高い（≠低い）

第1子出産前に第2子を検討

- 出産後の子育て負担の大きさに、第2子は「無理」と考える

## 例2

- 夫  
非伝統的な性別役割分業意識・男女平等志向  
→家事育児を多く分担  
働き方を調整

- 妻  
仕事+家事育児は夫と分担  
本人の仕事への意欲高い  
仕事により30代で理想の子ども数を産めなかった

- 妊娠できずあきらめる

収入や「夫の休日の家事・育児時間の長さ」だけでなく、夫の仕事規範、妻の仕事に対する意欲、夫婦それぞれの職場の働き方、教育負担なども関係している。

## 示唆される点

- 本調査の参加者は第1子出産後に就業継続している、比較的世帯収入の高い共働きの母親たちである。それでも、第2子は「無理」と考えることがある

→問題は経済的側面とは限らない

- 「産みたい」という意識は、女性が置かれた状況によって変化する。第1子を産む前から、ずっと同じ考えを持っているとは限らない

→複数要因の影響によって、「産みたい」「産まない」と変化する

経済的問題  
(子育て費用負担、賃金格差等)

+

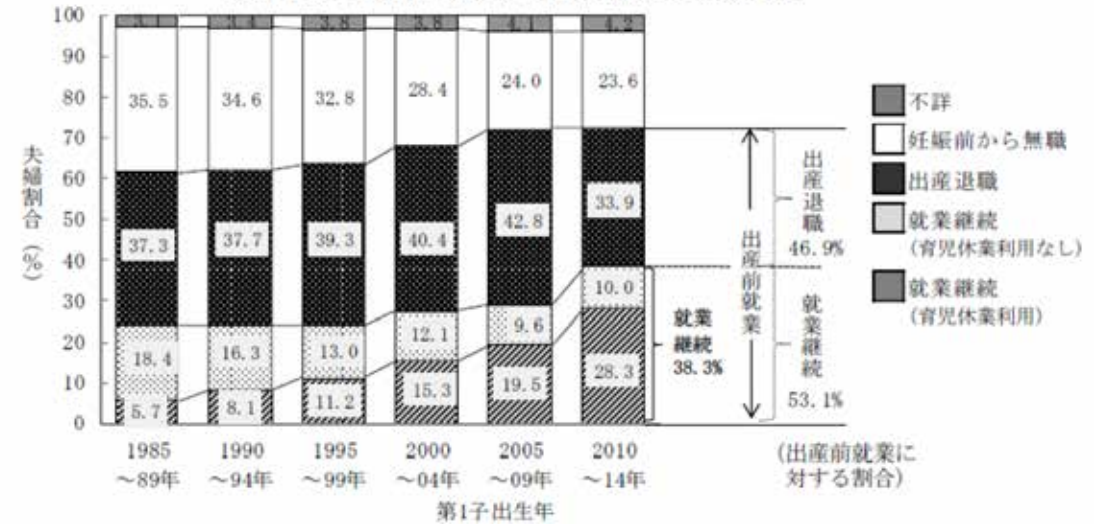
ケア責任のない男性を標準とした働き方

女性にかかる家事育児(+介護)の負担

早期教育プレッシャー

経済的な問題の解消にくわえて、三重負担を減らす必要性

図表Ⅱ-4-3 第1子出生年別にみた、第1子出産前後の妻の就業変化



出典：国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」

「産みたい」女性が「産める」には

## 「ワンオペ育児」の解消

- ・ 父親の育児分担を増やす
  - 男女ともに長時間労働の改善、転勤のない働き方、柔軟な働き方、育児休業取得
  - 一部の男性の伝統的な性別役割分業意識→若い世代には家事育児分担の教育を
- ・ 待機児童の解消、育児サポートの提供

**出産・子育てが男女ともにキャリアの障害にならない制度・雰囲気**

**加熱する幼児教育に対する不安の削減**

- ・ 親の就労・子どものケア・教育のすべてに配慮した就学前施設の整備（額賀 2017）
- ・ 社会全体で子どもを育てるまなざしと制度の必要性

## 参考文献

- 大和ハウス工業「共働き夫婦の『家事』に関する意識調査 [http://www.daiwahouse.co.jp/column/lifestyle/dual\\_income/index.html](http://www.daiwahouse.co.jp/column/lifestyle/dual_income/index.html)
- 藤田結子『ワンオペ育児—わかってほしい休めない日常』毎日新聞出版、2017年
- 平山亮『介護する息子たち—男性性の死角とケアのジェンダー分析』勁草書房、2017年
- 本田由紀「子供というリスク - 女性活用と少子化対策の両立を阻むもの」独立行政法人経済産業所シンポジウム、2004年
- 稲葉昭英「家族と少子化」『社会学評論』56(1)2005年
- 松田茂樹「近年における父親の家事・育児参加の水準と規定要因の変化」王季刊家計経済研究』No.71、2006年
- 松田茂樹「父親の育児参加の変容」稲葉昭英、保田時男、田淵六郎、田中重人編『日本の家族 1999-2009 全国家族調査[NFRJ]による計量社会学』東京大学出版会、2016年
- 内閣府男女共同参画局「『平成28年社会生活基本調査』の結果から ~男性の育児・家事関連時間~」、2017年  
[http://www.cao.go.jp/wlb/government/top/hyouka/k\\_42/pdf/s1-2.pdf](http://www.cao.go.jp/wlb/government/top/hyouka/k_42/pdf/s1-2.pdf)
- 額賀美紗子「育児と仕事のエスノグラフィー16 共働き家庭では「教育力」が低下しているのか—「きっちり習い事重視」の子育てにおける困難」『究』ミネルヴァ書房、2017年
- 額賀美紗子・藤田結子「共働き家族における仕事と子育て—未就学児がいる家族を対象に—」東京大学発達保育実践政策学センター関連SEED研究プロジェクト、成果報告会、2018年1月
- 小笠原祐子「性別役割分業意識の多元性と父親による仕事と育児の調整」王季刊家計経済研究丙No.81、2009年
- 鈴木富美子「育児期における夫の家事・育児への関与と妻の主観的意識—パネル調査からみたこの10年の変化」『季刊家計経済研究』No.100、2013年
- 筒井淳也・竹内麻貴「家事分担研究の課題—公平の視点から効果の視点へ」王季刊家計経済研究丙No.109、2016年
- 大和礼子・木脇奈智子・斧出節子編『男の育児 女の育児』昭和堂、2008年